

金沢中心部における歴史的住宅の継承・活用に関する研究

- その1 歴史的住宅の外観および居住性について -

正会員

○中野 圭輔*

同

増田 達男**

同

川上 光彦***

同

小林 史彦****

歴史的住宅

継承

活用

金沢

1. 研究の背景と目的

金沢市の旧城下域には昭和戦前期までに建設された歴史的住宅が数多く残存している。金沢市まちなみ対策課によると、金沢市のまちなか区域における町家の数は平成 11 年に 10877 棟であったのに対し、平成 16 年には 9506 棟と、5 年間で 1371 棟という速いペースで減少している。その後は、主に建替えられたり駐車場になったりしているものが多い。このことが非震災都市である金沢の歴史的景観の喪失だけでなく、観光資源、定住人口の減少を招くことにもなりかねない。これらの衰退を食い止める方策を考察する前に、金沢市民の歴史的住宅・景観に対する意識や歴史的住居の実態を把握する必要がある。

そこで本研究では、市民へのアンケート意識調査・歴史的住宅の主要な分布域における対象住宅のリストアップ・抽出世帯への訪問調査により、利用者の意識、実態を明らかにしようとするものである。

本稿では、金沢中心部における歴史的住宅の外観について実態を明らかにし、考察する。

2. 研究方法

・金沢の歴史的建築の継承・保存に関する住民意識調査
金沢市民を対象とした郵送アンケートにより、歴史的住宅の継承・活用についての意識を調査した。

・予備調査

2003 年度の増田研究室による旧城下範囲 3707 件のデータに基づいて、歴史的住宅が比較的密集している範囲を抽出（歴史的住宅母数の約 2/3）し、実地で対象住宅の現存状態を再確認した。

・歴史的住宅の実態調査

上記予備調査の対象住宅から、住宅種類別に 315 戸抽出（江戸期に建てられたと判明している住宅 24 件については全数抽出）し、調査員による建物調査、現在の居住者に訪問調査（居住者による自記式アンケート調査、ヒヤリング）を実施した。

3. 金沢市中心部に残存する歴史的住宅の外観

(1) 住宅の種類

金沢市中心部に残存する歴史的住宅は大別して町家

(図 1) と武士系住宅 (図 2) に分けられる。詳細は、表 1 のようになる。

表 1. 金沢市中心部の歴史的住宅の種類

町家系	平屋型、低町家、中町家、高町家、3 階建て、その他
武士系	武家屋敷、足軽屋敷、足軽小頭屋敷、近代武士型住宅、玄関後退型、その他



図 1. 町家外観



図 2. 武士系住宅外観

(2) 外観残存度

1 階の「外壁」「開口部」「玄関」、2 階の「外壁」「開口部」の 5 項目において、それぞれ「漆喰壁・下見板」「格子・しとみ戸・木枠ガラス窓」「大戸・格子戸・木枠ガラス戸」「格子・木枠ガラス窓・木製出窓」といった歴史的意匠の残存をチェックし、項目数 (0: 殆ど残存せず、1: あまり残存せず、2~4: 比較的残存、5: よく残存) で判断した。

「比較的残存」が 43% と最も多い。次に高いのが「あまり残存せず」の 33% で、「よく残存する」が 17% でそれに続く。(表 2)

表 2. 外観の歴史的意匠の残存状況

世帯・事業所 (%)

よく残存	26	(16.5)
比較的残存	68	(43.0)
あまり残存せず ^a	51	(32.3)
殆ど残存せず	9	(5.7)
無回答	4	(2.5)
合計	158	(100.0)

A Study on Succession and Adaptive Use of Historical Houses in the Central Area of Kanazawa City(part1)

Analysis on the Façade and the Livability of the Historical Houses

NAKANO Keisuke

MASUTA Tatsuo

KAWAKAMI Mitsuhiro

KOBAYASI Fumihiko

(3) 老朽状態

「建物全体の傾き」「屋根瓦の崩れ落ち」「軒先のたわみ・波うち」「壁の崩れ落ち」をチェックし評価を行った。「そのまま今後も使えそう」な建物は 67%、「今すぐ修理が必要」な建物は%である。最も老朽が多かったのは、「軒先のたわみ・波うち」26% (16/158) であった。(表 3)

表 3. 建築形態別の外観の老朽状態

	世帯・事業所 (%)	
	町家系	武士系
そのまま今後も使えそう	59 (67.0)	49 (80.3)
何らかの修理が必要	26 (29.5)	10 (16.4)
今すぐ修理が必要	3 (3.4)	2 (3.3)
合計	88 (100.0)	61 (100.0)

(4) 駐車

住宅における駐車場の有無に関しては、町家系、武士系ともに、「なし」が最も多く町家は半数を超える。武士系に関しては「スペース」26%が、「なし」49%に続いて多く、武士系住宅の前庭部分を駐車に利用していることが伺える。町家に関しては、「ビルトイン」17%が、「なし」69%に続いて多く、1階前面部分が、道路面に接しているので、車庫として利用される傾向がある。(表 4)

表 4. 建築形態別の駐車について (複数回答)

	世帯・事業所 (%)	
	町家系	武士系
スペース	6 (6.8)	16 (26.2)
ビルトイン	15 (17.0)	1 (1.6)
増築車庫	1 (1.1)	8 (13.1)
簡易車庫	1 (1.1)	5 (8.2)
なし	61 (69.3)	30 (49.2)
その他	4 (4.5)	4 (6.6)
合計	88 (100.0)	64 (104.9)

4. 歴史的住宅利用者の居住の問題点

歴史的住宅の利用者が、現在困っている居住上の問題として、外装に関する「屋根や外壁が傷んでいる」44%が最も多く、次に日当たりに関する「建物の中が暗い」37%、「日当たりが良くない」31%が多い。「駐車スペースが足りない」に関しては、約 3 分の 1 の人が、困ると感じている。

これらの項目が現代住宅と、歴史的住宅との居住性に関する顕著なギャップであることが伺える。(表 5)

表 5. 居住上の困窮点

	世帯・事業所 (%)	
	件数	割合 (%)
屋根や外壁が傷んでいる	70	(44.3)
基礎・柱・梁などが傷んでいる	42	(26.6)
段差が多くて危険	32	(20.3)
壁・天井など内装が傷んでいる	43	(27.2)
台所・風呂・洗面・便所などの設備が悪い	29	(18.4)
冷暖房費がかかる	32	(20.3)
建物の中が暗い	59	(37.3)
日当たりが良くない	49	(31.0)
間取りが使いにくい	30	(19.0)
天井が低い	32	(20.3)
建物が狭い	6	(3.8)
駐車スペースが足りない	46	(29.1)
庭が狭い	15	(9.5)
外観が古くて気に入らない	12	(7.6)
内装が古くて気に入らない	11	(7.0)
その他	9	(5.7)
とくにない	26	(16.5)
合計	543	(343.7)

5. まとめ

現在、金沢市の旧城下域に残存する戦前以前の住宅は、外観の残存状態・残存部位等から観察する限り、少なくとも 3,700 戸程度となる。いわゆる看板建築など全面改装されているものも相当数が残存しているものと推察される。

これらの歴史的住宅について実態調査を行った結果、正面外観の老朽状態としては、修理が必要なものは、武士系で 19%、町家系では約 1/3 であり予想よりも比較的少なかった。駐車場については、武士系で 7 割弱、町家系で 5 割弱が敷地内に設置しておらず、歴史的住宅の居住性に関する弱みであるが、伝統的なファサードが、駐車場の設置によって壊されているものが少ないのが伺える。

困窮点としては、屋根や外壁の傷み、日照採光の不足、駐車場の不足などが高率であった。

おわりに

ここで使用したデータは、金沢市まちなみ対策課の委託により金沢町家継承・活用研究会によって企画・実施した調査結果にもとづいている。また、資料の整理分析に際しては、金沢工業大学修士課程 2 年潮見昭信君の協力を得た。

*金沢工業大学大学院工学研究科建築学専攻 博士前期課程

*Graduate Student Kanazawa Institute of Technology

**金沢工業大学建築・環境学部 教授・工学博士

**Professor, Department of Environmental and Urban Design, Kanazawa Institute of Technology

***金沢大学大学院自然科学研究科 教授・工学博士

*** Professor, Graduate School of Natural Science and Technology, Kanazawa Univ, Dr-Eng

****金沢大学大学院自然科学研究科 講師・博士 (工学)

****Assistant Professor, Graduate School of Natural Science and Technology, Kanazawa Univ, Dr-Eng